

放課後子ども総合プランの充実と在り方

平成 29 年度第 1 回守谷市社会教育委員の会議：平成 29 年 10 月 30 日

守谷市が放課後子ども総合プランを導入して 10 年以上経過しました。

「放課後子ども総合プラン」とは、就労家庭を対象にした放課後児童クラブ（以下、「児童クラブ」という。）と、在学する小学校の全児童を対象にした放課後子ども教室が合同で活動を行う取組です。

児童クラブは、平成 4 年度から平成 12 年度までの間に全市立小学校に開設しており、現在、多くの共働き家庭が活用しています。この 5 年間を見ても、児童数及び就労者数の増加に伴い支援数が増えており、今後も、活動場所や支援員の確保などに対応する必要があります。

一方、放課後子ども教室は、平成 16 年度から平成 18 年度までの間に、全市立小学校において、全児童を対象にスタートしました。全国的に少子化、核家族化、地域の連帯感の希薄化が進み、地域ぐるみで子ども達を育てることの重要性が叫ばれる中、放課後の特別教室等を子ども達の安全・安心な活動拠点として活用し、遊び、学びや体験活動、スポーツ・文化芸術活動、地域の大人との交流活動等の取組を通して、子ども達の社会性・自主性・創造性等の豊かな人間性を育むとともに、地域コミュニティの活性化を目指しています。

今回、私達は、放課後子ども教室の事業 P R を目的に設定していた週一回の「無料日」廃止の背景や、守谷市行政改革推進委員会（外部評価）の意見等から、放課後子ども総合プランの充実や在り方について再検討する必要があると考え、意見を集約しました。今後、この事業が、学校・家庭・地域をつなぐ総合的な放課後対策となるよう次のことを提言します。

1 安全・安心な場所の確保を

児童クラブ・放課後子ども教室とも、子ども達に、安全で安心して活動できる場所を提供しなければなりません。他自治体と比較して児童数が多く、余裕教室が少ない守谷市においては、放課後の体育館や特別教室等、放課後に使用可能なスペースを、学校の理解と協力を得て、フル活用する必要があります。

① 適切な活動場所の確保

守谷市独自の「児童クラブ施設長＝学校長」のシステムを、放課後子ども教室を含む放課後子ども総合プラン全体の考え方とするためには、常に学校との情報交換を通して、困ったときには頼れる関係性を構築することが大切です。

また、教室等の借用に当たっては、行政が現状を把握し、委託先の意見等を踏まえて学校と調整し、適切と考えられる対策を選択して実施することが重要です。

② 安全で安心できる居場所

守谷市の9つの小学校では、子ども達が、学校終業後（放課後）に確実に放課後子ども総合プランの活動場所に移動できるよう、支援員が確認しています。間違えば、居場所が分からなくなり、事件・事故に巻き込まれることも考えられるため、家庭・学校との連絡を密にし、子ども達にとっても、保護者にとっても安全・安心な居場所にしなければなりません。

また、マネージャー・支援員は、研修等を通して自らをスキルアップさせ、児童心理を学ぶなど、子ども達としっかりと向き合う意識を身に付け、安全で、安心して生活できる環境を作ることが大切です。

2 地域社会で豊かな子ども達の育成を

地域ボランティアの方々は、子ども達と仲良くなりたいとか余裕時間を元気な子ども達と接して、自分も元気になりたいという気持ちが強いと感じます。

地域と学校の関係性を見ても、学校を中心に地域が盛り上がる傾向にあることから、地域の大人が日常的に放課後活動に関わり、子ども達と接触して、見守りながらいっしょに遊んだり、勉強したりすることは大変有意義なことです。

① 学習支援の範囲

支援員や地域ボランティアによる学力向上を目的とした学習支援はなかなか難しいものです。特に、算数の学習方法や解の導き方などは、その時代のやり方を助言したことで、学校の授業で混乱を来たしてしまう側面も見られます。学習支援に踏み込むためには、それなりの知識や経験を持っていて、ある程度の認識がある人が支援しないと、結果的に子どもや学校に迷惑をかけることになります。

学習支援を始めるときは、大学生や元教員など、多様な人材の参画により学習プログラムの充実を図る必要があります、人材の確保や予算化が必要なのではないでしょうか。

ただし、辞書の引き方など基礎的なことなら地域ボランティアが支援することもでき、子ども達と地域ボランティアとのコミュニケーションを図るチャンスになります。

●辞書引き学習（深谷圭助・中部大学准教授が開発・提唱）

「辞書引き学習」とは、言葉への興味・関心がまさに高まり始めたばかりの小学1年生に辞書を与え、生活のさまざまな場面で引くことを勧める学習法です。メモした付せんを辞書のページに張っていくことで、どのくらい辞書を引いたかが実感でき、達成感が得られる仕組みになっています。

この繰り返しにより子ども達が自ら学ぼうとする「自学力」を知らず知らずのうちに身に付け、学力向上につながるとされています。

② 講座等への関わり

守谷市には、様々な特技を持った方が住んでいます。地域ボランティアの方々はもちろん、「生涯学習人材バンク」を活用すれば人材は豊富です。

また、公民館活動などで培った技能を提供している団体もあります。

地域の方々には、自らの学習経験を放課後子ども教室の活動に生かして、やりがいや生きがいを感じていただくことができ、その行動が地域の教育力向上にもつながるため、「教えたい人を放課後子ども教室の現場につなぐ」ことは、行政の役割として有意義なことであると考えます。

現在の放課後子ども総合プランにおいても、人気が高いサッカー教室、英語教室など委託先の自主事業や、おもしろ理科実験教室、落語教室など外部機関に講師を依頼している講座の他、人形劇観賞、音楽鑑賞、かつぽれ教室、世界の民族衣装体験などには多くの市内のサークル・団体が関わっています。

今後、守谷市の放課後子ども総合プランの特徴として、また、生涯学習の観点からも地域の大人が講師となって、子ども達とコミュニケーションを図り、大人も子ども達も活動に参加しやすい環境を作ることが必要です。

③ 放課後の役割

放課後は、単に子ども達に対する安全な居場所を提供することだけではなく、子どもにとって、学校の授業の中では得られない経験や学びを得られる場であることが重要だと考えます。

また、放課後子ども総合プランのタイムスケジュールに応じて、子ども達がきちんと集中して宿題や遊び、その他のプログラムに取組み、活動を通して自分のことは自分でできる力を身に付けることも大切です。

さらに、現在の子どもを取り巻く家庭の教育力の低下も危惧されています。将来的には、気軽に子育て相談ができたり、保護者同士の仲間作りや親子のコミュニケーションの場となるなど、放課後子ども総合プランが、学校・家庭・地域をつなぐ役割を担う事業となることを期待します。